

長崎検定

一級さん

Vol.15

タイムマシンがあったらなあ。

友永富士夫さん

合格率五・三％。長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した一級ホルダー。その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。
みづくはらたに寄稿願いました。

長崎市南部の土井首地区の生まれ育ちで海に親しんで育ちました。ペーロンがあり夏は熱い闘いがあります。地元のペーロンおやじです。

私が小さいころ、周りにはお伽話おとぎばなしのようないろんな昔話を聞かせてくれる人が多くいました。「高鉾島の沖には宝船が沈んでいるよ」「昔、台風の際に阿茶さんの船がふらふら流されよその船にぶつかり大事になったので船はちやあんと繋ぎましよう」「福田の沖には大きな大きな外国行きの船が沈んでいて、それは出島岸壁から出て行くとも見事な船じゃった……」「ふーん」私は多くの話を夢を持って聞いたものでした。そのころから私の歴史好きは始まったのかもしれない。歴史を読む時、自分がそこに居たならと勝手なことを想像すると興味は尽きません。天正の少年使節が当時ヨーロッパ最大の帝国であったスペインを訪れ東方の王子として国王フェリペ2

世に謁見えうけんした時、王は謁見の間に入ると玉座には着かず4人の少年の方へ歩み寄り進み出た伊東マンシヨの姿の素晴らしさに見とれ驚きの表情を浮かべながら一周し美しい着物に触れ刀を手に取って眺めたそうです。

そこで見てたらどんなに素敵かな？ とか、また大航海時代の礎を築いたポルトガルのエソリケ王子に会って机に向かい会い王子の夢について語ってもらえたら……。とか勝手にいろいろ考えるとシビれますね。(私がこんな話ばかりしていると友人からは変わったヤツだとよく言われますよ) 去年歴史を読むうちにフェートン号事件に辿り着きその中の多くのドラマを知り、長崎奉行の無念さは如何いかばかりかということに心を打たれたことが長崎の歴史の旅の始まりで長崎検定受験のきっかけとなりました。多くの出来事の中、それに携わった人々の心を考えることでとても多くのことを学べると思っています。今年の受験勉強

の間も子供のころに聞いた多くのお伽話を思い出しながら楽しく学ぶことができました。長崎の人が改めて長崎を知り学ぶことのできる長崎検定はとても素晴らしいと思います。

知れば知るほど深く素晴らしいロマン溢あふれるエキゾチック長崎、語ればキリがありません。今後もさるくガイドとしてさらに研鑽けんさんし訪れる方々に長崎の魅力をお伝えし観光・長崎のお役に少しでも立てればと思っております。ありがとうございます。



【プロフィール】
1962年長崎市生まれ 48歳。
現在さるくガイド。
趣味、つまらないことを考えること、旅、オートバイ。